

大島地域におけるかんきつ 産地の体制強化と担い手育成

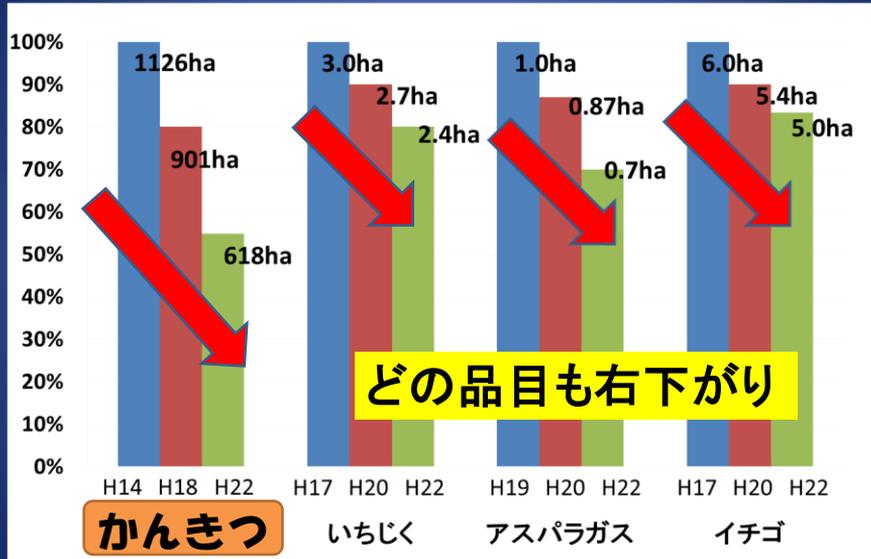


平成23～24年度
柳井農林事務所農業部

管内の園芸品目



主要品目の面積等の推移



3

周防大島町のかんきつの産地背景

県内一の
かんきつ産地

出荷量の約80%を占有

4

マイナス面

- ・生産者の高齢化
- ・園地設備の老朽化(道路、用水路など)
- ・省力栽培に適さない狭小園地



5

プラス面

新規就農希望者が増加傾向

「せとみ」外観良好

糖度13.5度以上 酸度1.35以下

県振興品目「ゆめほっぺ」
の商品力→農家所得向上
(全かんきつをリードしていく主力品目)

6

課題の組立

- ①ゆめほっぺの生産拡大
=主力導入作物
- ②ユーカーリ等栽培技術の確立と産地化
=かんきつの補完作物
- ③新規就農者の確保
=担い手育成
- ④かんきつモデル生産団地の整備
=生産効率化のための条件整備

産地体制の強化

7

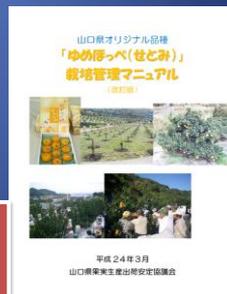
①「ゆめほっぺ」の生産拡大

●栽培技術の向上

JA、全農山口県本部、農林総合技術センターと連携し、栽培技術を普及

- ・栽培マニュアル改訂 【写真等わかりやすさ、新たな知見、新技術等】
- ・ゆめほっぺ講座の開催(年5回)
- ・各地区栽培講習会の開催

黒点病果の減少、袋かけの徹底による
外観の改善



①「ゆめほっぺ」の生産拡大

● 冬季低温時の体制整備

H22年産、強烈な寒波による甚大な被害

寒害回避のため、寒波襲来前の収穫が必要



下関地方気象台より寒波情報通知

※低温2日前の午前10時に最低気温が-4℃以下の予想

県農林水産情報システムからメール配信

大島郡柑橘振興協議会で収穫判断

防災無線等で生産者へ収穫・貯蔵指示

H23年産において収穫指示し、寒害被害を回避

9

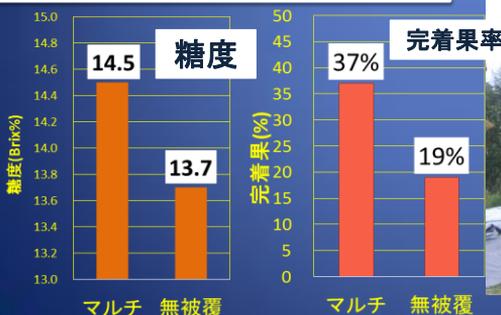
①「ゆめほっぺ」の生産拡大

● 品質向上資材の効果確認

糖度向上・着色遅延の改善

実証ほ設置 白黒ポリマルチ被覆

糖度向上・着色促進



白黒ポリ被覆で保水+反射効果

①ゆめほっぺの生産拡大

●販路拡大

・特選品出荷体制の検討

農家指定制度、手詰めラインの活用
を検討

・低温貯蔵庫導入による延長出荷の検討

↓ 低温貯蔵庫を導入し、5~7月の
かんきつ端境期に出荷

H24年6月に試験販売

↓
大田市場等、高評価を得る

特選品
糖度15度以上



②ユーカリ等栽培技術の確立と産地化

●新規栽培者への技術指導

かんきつ補完作物・・・ユーカリ、アカシア

展示ほ場の設置
新規栽培者の募集、技術指導
栽培方法実証試験(挿木、整枝)
経営モデル作成・検証



展示ほ場のアカシア

ユーカリ:生産者10戸(面積40a)が栽培

②ユーカリ等栽培技術の確立と産地化

●有利販売のための計画出荷体制整備

- JA主体の共販体制の整備
JA、徳山花市場との調整
出荷規格の作成
出荷調製方法の説明会開催



収穫、調製作業

出荷体制整備、共販出荷開始！
平成23年度1000本出荷
平成24年度1500本出荷予定

13

③新規就農者の確保

- かんきつの栽培技術指導
- 新規就農に向けた準備支援

基礎研修

周防大島いきいき営農塾(H24:51人)
フォローアップ研修(うち15人)

現地研修

県研修事業の活用
営農支援員設置事業(JA)
やまぐち就農支援塾(農大)
自己経営開始支援事業(農家)

就農開始

平成24年度
かんきつで6名就農

経営状況の確認

個別指導(栽培・経営)
集団指導(スキルアップ研修)

栽培技術の向上
経営の安定

栽培技術指導(摘果)



う〜ん…、
摘果って
結構難しい！

研修期間中の支援

営農計画の作成→認定就農取得
就農資金協議
園地・農業機械の取得
住居の確保



青年就農給付金交付式

③新規就農者の確保

●新たな人材受入体制整備と環境づくり

生産基盤の確保

- ①園地の調整
 - ・研修生と貸し手・地域の世話人との調整
 - ・適地の判断
- ②中古機械や倉庫等の情報提供



借りた園地を造成・改植



借りたミカン倉庫

③新規就農者の確保

●新たな人材受入体制整備と環境づくり

生活基盤の確保

H23 アンケート実施

- ①住宅情報
 - ②生活基本情報
 - ③交流の場
- 情報収集・提供のしくみ必要

H24 交流の場づくり
若い女性対象の
交流サロン開催



声をかけてもらったのは初めてです

ゆっくり話が出来て良かったです

③新規就農者の確保

●農外参入企業への支援

H23から農業参入相談

自己経営開始支援

- ・農地の調整(現在3.3ha)
- ・営農計画作成
- ・栽培技術指導

労力補完体制試行

- ・受託料金や作業内容の設定
- ・作業試行、検証中



④かんきつモデル生産団地の整備

H22までの活動経過

久賀地区をモデルとして将来構想づくり

- ・久賀地区の柑きつを考える会発足
- ・ワークショップ 園地、集落点検マップ
将来構想図策定
- ・ユーカリ紹介
- ・優良事例視察
- ・園地、後継者、経営に関するアンケート

H23からは将来構想の具体化へ

④かんきつモデル生産団地の整備

●推進体制整備

久賀地区に3つのモデル生産団地を選定

地元推進体制

H23準備組織 ⇒ H24整備組合発足

畑能庄

上田ヶ丘

久保の原

2つのテーマで話し合い

基盤整備
(ハード)

担い手対策
(ソフト)

④かんきつモデル生産団地の整備

●基盤整備

◎整備意向調査(集落全戸)

◎役員会で整備構想案作成



◎全体説明会

取組周知
構想図提案、修正
意見交換



合意形成

④かんきつモデル生産団地の整備

●3つの園地整備決定

久保の原地区
畑能庄地区
上田ヶ丘地区

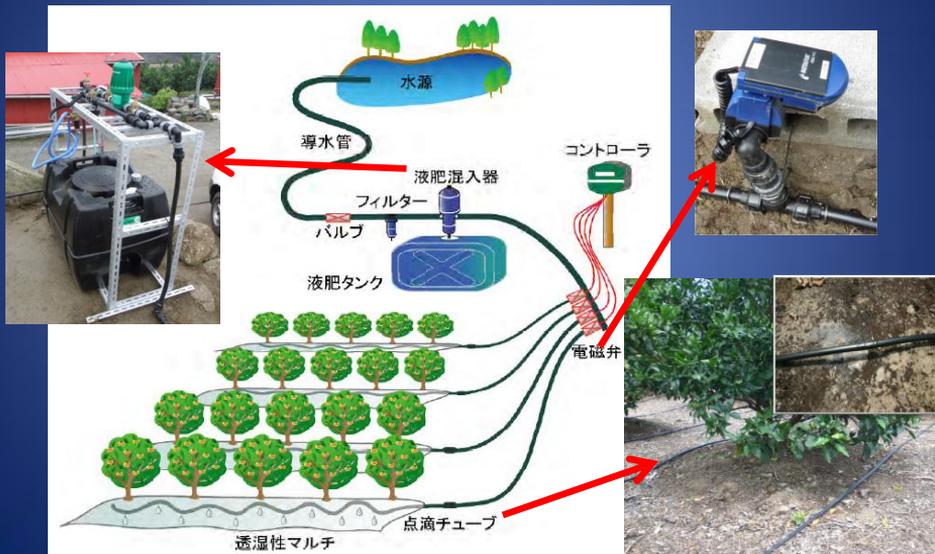
【整備概要】
事業名: 耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業
対象面積: 約34ha 事業費: 約6億円
工期予定: 平成24～28年(5年間)
負担割合: 国55% 県30% 町14% 地元1%

H24実施設計～H25工事着工予定

21

④かんきつモデル生産団地の整備

マルチドリップシステムの導入を検討
(灌水時に液肥を混入→自動灌水+施肥)



④かんきつモデル生産団地の整備

団地型マルチドリップシステム導入イメージ



23

④かんきつモデル生産団地の整備

●担い手対策

- ・新規就農者と地元代表者、地権者との調整
- ・地元拡大意向者の把握(農地アンケート)
- ・営農計画の提案

・規模: 2ha/1戸 ・経営品目: かんきつ+ユーカリ
 ・1戸当たり 農業所得目標: 325万円

品種系統	極早生 早生	普通	改植	せとみ	南津海	ユーカリ	計
栽培面積 (ha)	0.2	0.8	0.2	0.2	0.4	0.2	2
粗収益 (千円)	495	1,960	0	968	2,736	344	6,502
経営費 (千円)	241	1,254	172	395	986	197	3,243
所得 (千円)	254	703	-172	573	1,750	147	3,259

④かんきつモデル生産団地の整備

●担い手対策

将来の担い手候補者の決定

- ・地区内の後継者:3名(うち新規就農者1名)
- ・地区外からの参入者:2名(新規就農者)
- ・農外参入企業:1社



地権者との具体的調整支援 (担い手候補者と地権者とのマッチング)

25

④かんきつモデル生産団地の整備

●情報収集及び 情報の共有化による推進体制づくり

・先進地視察研修

～園地の団地化と省力化、マルチドリップ栽培他～

〈10月:八女市、2月:熊本市〉

・組合通信の発行

・情報交換会開催(3月)



26

④かんきつモデル生産団地の整備

●新たな生産団地候補地の掘り起こしと将来構想作成

沖浦(戸田)地区

※40代夫婦2組、企業1社
が入植希望

園地及び集落点検

品目、耕作放棄地、用水、道路
栽培継続の意向、空家等を確認

農地情報マップを代表者へ提示

将来構想作成支援



目標数値達成状況

目標項目	現状(H22)	目標(H24)	実績見込み(H24)
「せとみ」			
栽培面積	52 ha	64 ha	54 ha
出荷量	178 t	618 t	— t
ゆめほっぺ率	81 %	90 %	— %
ユ一カリ等栽培面積	0 a	60 a	40 a
新規就農者の確保(累計)	0 人	5 人	10人
かんきつ園芸団地将来構想策定数(累計)	1	2	2
基盤整備着工団地数(累計)	0	1	1

次年度以降の取組(かんきつ)

【新たな担い手の効率的な確保・育成】
ターゲットは新規就農者と農外参入企業

受入体制の強化
(関係機関の役割分担と強力な連携)

掘起→研修→就農→定着

【ゆめほっぺの生産拡大】

高品質安定生産技術の確立
長期貯蔵技術の普及
特選品等を活用した販路拡大

【ユーカリ・アカシア等の産地化】

高品質安定技術の実証・確認
販売体制の確立

モデル経営の実証

具現化

【かんきつモデル生産団地の育成】

久賀地区 (H25~28 ハード整備)

戸田地区 (H25~27 プラン構築)
(H28~ ハード整備)

東和地区 (H25~28 プラン構築)

安下庄地区 (H25~28 プラン構築)

他地区へ波及

かんきつ産地
の再生へ

29